

「ふくし共育」って な・あ・に？



(正式には「福祉教育」ですが、大田原市社協では「ふくし共育」と表しています。)

○ 福祉教育（ふくし共育）のねらい

子どもから高齢の方まで、みんなが地域で共に生きる社会を作っていくことを目指します。地域のつながりの希薄化や孤立化が社会問題となっている中、一人ひとり、自分自身が、**地域でつながりをもって暮らしていけるように**「地域で共に生きる力」を育むことが求められています。

大田原市社会福祉協議会は、地域と学校と共に「ふくし共育」を進めています。



○ どうして「ふくし共育」なの？

「**ふだんの
くらしの
しあわせ**」を

福祉とは、地域に暮らすみんなの「**ふだんのくらしのしあわせ**」であり、自分のしあわせ、みんなのしあわせをみんなで考えていくことです。お互いさまの助け合い、支え合いの活動です。

地域で
共に育み

子どもから高齢の方まで、ひとりひとりが地域でつながりをもって暮らしていけるように、「地域で共に生きる力」を育むことが求められています。

共に生きる

共に生きる
地域を目指して
いきましょう！



みんなの想いを ふくし共育で つなげよう！



子どもの声 ～活動に参加してみて～

- 地域の良さをアピールしていきたい。
- 地域に住む若者の力が足りないと思う。
- 自分にできるものがあれば参加したい。
- 自分の住む地域のことを、もっともっと知りたいと思った。学校の人にも伝えたい。
- 自分も地域のためになるような仕事がしたい。
- 地域の民生委員さんと知り合いになれて、あいさつするようになった。



子ども



みんなで 話し合っ て みましよう！

地域



地域の声

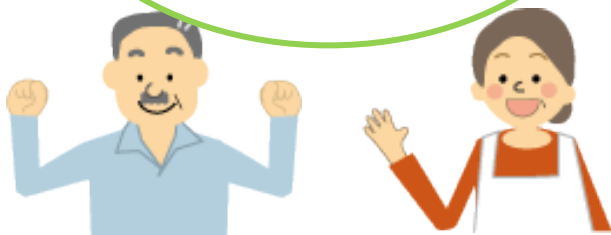
- 子どもは地域の宝だよ。
- 子どもに地域の活動に参加してほしい。
- 地域に愛着をもってほしい。
- ふるさとに帰ってきてほしい。
- 地域の活動を知ってほしい。
- 中学生のフレッシュな発想を地域の活動に生かしたい。

学校



学校の声

- 地域と連携したい。
- 地元の活動が分からない。
- 地域の人材を知りたい。
- 児童・生徒の自己重要感を高めたい。
- 児童・生徒の「生きる力」を育みたい。
- 児童・生徒が関心をもったことを、実体験で学ぶ機会が必要。



子どもと♥地域とつながる ふくし共育活動例

地域とのかかわりから子どもたちのふくし共育に取り組んでいる活動例を紹介します。

- 1 つながり（誰と誰）
- 2 内容 ①ねらい ②いつ（時期・回数） ③どこで ④誰が ⑤何を
- 3 取組の特徴・ポイント
- 4 気づきと成果



ふれあい広場

食事サービス体験

縄よじり・豊年棒づくり

- 1 湯津上地区社協 ♥ 児童 ♥ 地域
- 2 ①児童と地域のつながりづくりと、昔からの豊年祈願の伝統行事を伝えていくこと。
②毎年9月（お月見の前）年1回
③湯津上地区内小学校（佐良土小・湯津上小・蛭田小）を順回り
④地区社協主体で、児童・学校職員・保護者・地域の高齢者など
⑤地域の方に縄よじりや豊年棒の作り方を教えていただきながら交流する。
- 3 湯津上地区内3小学校を順回りで実施し、小学校6年間で2回体験できるため、地域の方とのつながりが深まっている。
- 4 地域の方との交流で、地域に親しみをもつようになり、伝統行事への興味関心へとつながっている。



年賀状配布

- 1 黒羽小学校児童 ♥ 地域の高齢者 ♥ 黒羽見守り助け合い隊
- 2 ①高齢者世帯との交流
②毎年12月～下旬（年1回）
③黒羽地区内
④黒羽小学校の児童が、黒羽見守り助け合い隊を通じて
⑤ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯へ、児童が書いた年賀状を、郵送している。
- 3 児童の年賀状を、黒羽見守り助け合い隊事務局を通じて、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯へ郵送している。
- 4 高齢者は、年賀状を毎年楽しみにしている。児童は、年賀状づくりを通して、相手を思いやる心を育む。



茶話会

- 1 福原小学校児童 ♥ 佐久山おもいやり隊
- 2 ①地域の高齢者と交流し、児童に身近な見守り活動を知ってもらう。
②平成26年8月7日
③ふれあいの丘
④児童・教員・隊員・高齢者
⑤茶話会に参加し、高齢者と一緒にゲームや茶のみ話をしながら交流する。
- 3 地域の隊員や学生ボランティアの活動を知る。
- 4 児童は、ボランティア活動に魅力を感じ、地域の助け合い活動への関心が高まり、新たな活動



へつながった。また、参加していた「学生ボランティアのようになりたい。」という思いをもった。（ロールモデル）

「ふくし共育の重要性」

国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 准教授 大石 剛史

今、日本は世界に類を見ない超高齢社会に突入しています。単に高齢者が増えているだけでなく、国の推計では高齢者で一人暮らしの世帯が、2015年には600万世帯になっていると考えられています。高齢者の問題に限らず、障がい者福祉の課題、生活困窮者の課題、子育てや育児、児童虐待などの児童福祉の課題など、様々な福祉課題が国中で増大しています。

これからの福祉を考えると、重要になるのは、私たちが暮らす身近な地域の中でのちょっとした助け合いや支え合いです。昔に比べ、地域のつながりは希薄化していると言われますが、ボランティアや地域福祉の活動に関心をもつシルバー世代や若者も増えてきています。

「ふくし共育」とは、私たち自身が、自分たちの身近な地域の中で「**ふだんのくらしのしあわせ**」を共に考え、育ち合っていこうということです。共に育ち合うことを通して、地域の絆が深まり、様々な課題に対応できる助け合いの地域が作れるのです。あなたも、自分に出来るところから、「ふくし共育」に参加してみませんか？



社会福祉法人大田原市社会福祉協議会 ☆社会福祉協議会はふくし共育・福祉教育を推進します！

○本 所 電話:23-1130 ○湯津上支所 電話:98-3715
(地域福祉係) FAX:23-1138 FAX:98-8011
大田原市浅香 3-3578-17 大田原市佐良土 853
市福祉センター内 佐良土多目的交流センター

○黒羽支所 電話:54-1849
FAX:54-2745
大田原市黒羽前田 848